月刊 RIPPLE

【発行】
リプル・セイリングクラブ
〒240-33
神奈川県横須賀市長井町2-11-1
☎0468-57-1711

1987. 5. 15　　No. 56

長浜オープンヨットレース開かる

４月２７日まったりとした雲がたれこめて、今にも泣き出しそうな空のもと、第一回の長浜オープンヨットレースのスタートを知らせるホーンが元気よく鳴り響いた。

それにつけてもこの微風。参加３０艇にとって、辛く長い一日が始まった。

当日本部船の運航のため、エース、桑原、室松らを欠いたレーザー長浜フリートにフルメンバーで挑むリプルチーム。実力者はいるものの、人数的には不利な状況にある、ＹＳＡ長浜、三戸浜両フリート。そして、最近めきめきと力をつけてきたファーイーストフリートも、はっきり言ってあなどれない。なんたって対抗戦では負てんだかんね、リプルは。

さて第一レース、レーザーフリートが１～３位までを占める。リプルは１４位の大木が最高位という情けなさ。それにひきかえファーイーストでは、新が５位に入るなど、ぐわんばってるじゃんか。どーすんだよ。

ほとんどあきらめの第２レース。何をとち狂ったか、ミスタードンケツと呼ばれたリプルの松沢、修整トップの偉業を成し遂げた。

歴戦のレーサー達を向こうにまわし、アッパレ花火の活躍であった。集計の間違いでない事をを祈りたい。

レースが終わるころには雨も激しく降り初め。アフターレースのパーティー　はファーイーストにて盛大に行われた。

リプルの塩野谷、ファーイーストの谷口両氏が気合いを入れて作ったおでんに舌鼓を打ちつつ表彰式となった。

やはりレーザー軍団の底力はすごいものがあり、個人優勝の城内をはじめ、１５位以内に４名が入る活躍ぶりで、ダントツで団体優勝。

桑原、室松が抜けていてこれなのだから、その強さはただ者でない。

大きく得点差はあったものの、２位にはリプルが入り、一安心。

松沢の１１位が光る。

各団体の挨拶やジャンケン大会など、雨の降る地味な春先の日曜日は楽しく暮れていった。

中でもレーザー長浜フリートの今年度のキャプテン、狼谷氏の挨拶は、名前も（おおかみだにって読むんだぜこの人。すげー怖そうな名前だと思わない？）実際、態度もおっかない人なのだが、挨拶の時ふと見ると何気なく手にした缶ビールをマイク代わりにして喋っていたりして、何となく人柄が解ります。

ますます充実した長浜のレースシーン。今後の発展が楽しみです。

マッチレースはお遊びなのだ

大相撲も始まって、エキサイテイングした毎日を送っている方も多いかと思いますが、何と言っても僕は野球はどうも疎いので、この季節楽しみは相撲なんですよ。

相撲ってのは考えてみるとマッチレースの一種で、レースって言うのはおかしいけど、まあ一対一の戦いであることには違いなく、それにしては総当たりではないし、トーナメントでもない。いたって、そのとりくみは不明瞭なわけです。

下の者が勝ち進むと、つぎつぎと強い力士とあたったりするわけで、決して場所中にすべての力士と対戦するわけでもなく、その取組はエライ人が勝手に決めちゃってるけど、誰も文句言わないときてる。

もっともそこが面白いところなのだ。

不明瞭な取り組み相手の決定が、実に巧く勝負を盛り上げていくのだ。

で、前置きが長くなったが、ここでヨットに置き換えてみたのだ。そして、とりあえず10日に行われたリプルカップでこの相撲方式マッチレースを行ってみたのであった。

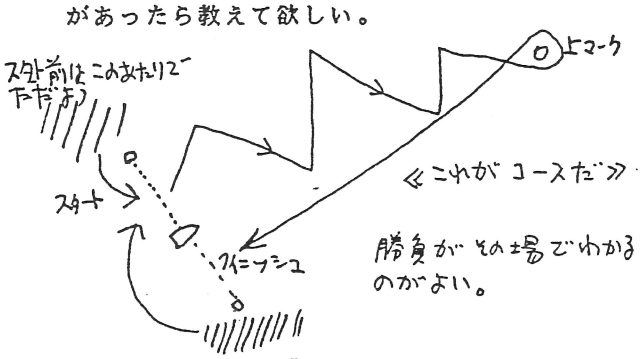
どうもこのところ盛り上がりを見せるリプルカップも、初心者の人には近づきにくくなって来てしまっているようで、僕はちょっと悲しかったのだ。初心者は初心者同士で戦う。これが楽しさの秘訣じゃないか。

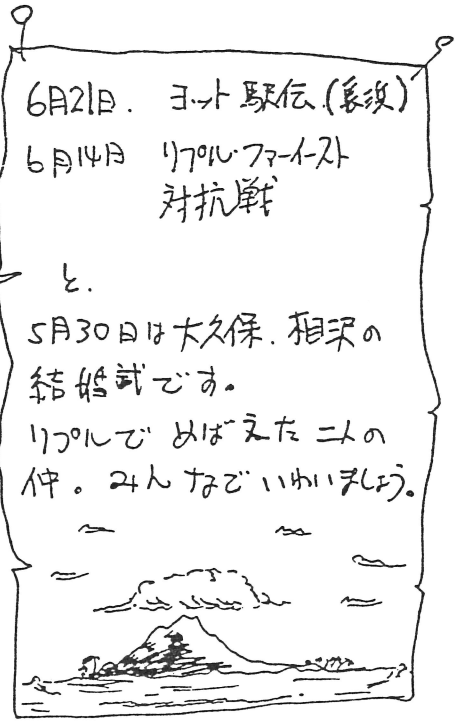
さて当日、天気もいいし風もいいし、最高に一日なのになんでこうも参加艇が少ないのか。悲しくなってしまう7艇はつぎつぎにスタートしていくのであった。

東の横綱、大木に武倉、大田、羽田、小林らがつぎつぎと挑戦するが、壁は厚い。

一方、幕下の大田。果敢なスタートを見せるが今一つスピードに乗り切れず、ファーイーストの羽田に破れた。次回に期待したいところ。

なかなか楽しい相撲タイプのマッチレース。来月行われる予定のリプル・ファーイースト対抗戦で採用したいと考えているので、色々なアイデアがあったら教えて欲しい。





外洋レースもまた楽し

ファーイースト なんかこわくないの巻

ディンギーレースだけじゃ物足りないもんね、と言うことでワシら行ってきました。伊東まで。そしてあの宿敵ファーイースト号も参加してるとあって俄然燃えるのであった。

油壷～伊東間で争うレースなのだが、なにしろ風が強くてかなり迫力のあるスタートシーンを満喫し、迫力の上りレグがつづくのであった。いんちきなスタートのためすっかり遅れを取った我がデリバランス号は得意の上りで他艇をごぼう抜き。ファーイースト号もはるか後ろに引き離したのだ。

途中風が落ちて、訳がわかんなくなってしまったが、楽しい一日でした。現在、大島クルージング計画中です。